

### クメール正月の帰省 本当の家族のような暮らしを目指して



お坊さんにお経をあげてもらい健康祈願をしました

皆様こんにちは。日本では桜の季節も終わり、梅雨入り前の爽やかな気候に恵まれているのでしょうか？乾季の終わりから雨季に入りカンボジアの暑い中で生活していると、鯉のぼりのある日本の風景が懐かしくなります。

今回のドリーム通信はカンボジアの正月の子ども達の帰省の様子と、子ども達と職員の関わり方についての新しい取り組みについて、お知らせしたいと思います。

#### クメール正月 子ども達の帰省

園では年に2回クメール正月とお盆に育ての親の元へ帰省をしています。帰省は園に来る前の生活を思い出すこと・自分達を支えてくれる周囲の方々への感謝の気持ちを忘れないために行っています。カンボジアでは4/14・4/15・4/16の3日間が正月の三が日になるので、今年は4/9から4/17に帰省をしました。帰省前には日本のお正月は何をしますか？お寺には行きますか？など質問を日記に書く子どもがいたり、みんな帰省を楽しみにしていました。子ども達は勿論ですが育ての親や親戚の方々も子ども達の帰りを楽しみにしていた様子が、子ども達を送り届けた際によく分かりました。

親や親戚には園での生活の様子・成績を報告し、生活態度に問題がある子には指導を依頼します。8月には進級・卒業試験を控えている為進路についても話し合う事をお願いしました。

17日に子ども達を迎えに行った際、笑顔で家族へ挨拶をしている姿はお正月休みを満喫し、園の友達に会うことを楽しみにしているように見えました。帰りの道中は休みの間に家の手伝いをしたか・どこかへ出掛けたのか何をして過ごしたか、それぞれ報告をしました。

今回残念だったことは小学校1年生のムーン・ソペアック(小1・男)とムーン・ソップワン(小1・男)が迎えに行った際に、彼らの祖母と共に家を不在にしていた事です。翌日には園に戻りましたが、帰省中入園する前と同じように近所へ物乞いをしに行っていた事を、彼らの住む地区の地区長さんが話



可愛がっていた犬を連れて帰ります



出発前の車内。元気です。



久しぶりの再会 叔父と叔母がお出迎え



部屋ごとに調理 保母さんが指導します



忘れ物はないか荷物の確認



家族みんなで手を取り合っ

してくれました。カンボジアでのお正月は新年を迎える為のお供え物を用意したり、三が日の期間お寺へお参りしたりと大切な習慣があります。ですが、子ども達を育ての親や親戚の元へ帰省させることが、必ずしも安心・安全ではない事を学びました。今後、新しく園に迎える子の家庭事情や環境をしっかりと把握できるように務めたいと思います。

## 本当の家族のようになる為の取り組み

夢追う子どもたちの家は開園から約9年が経ち、開園当時は全員小さかった子ども達ですが、現在は6歳から21歳の子ども達が入園している為、大きい子が職員の役割を担ってくれる反面、指導が難しいという課題もあります。また現在61名の子どもが入園していますが、集団の中に紛れてしまい、責任感や自分で考えて行動するという力が身に付きにくいという問題、そして職員が保母、調理、事務所と役割が分かれていることで、自分の役割を果たす事が優先になり全員の子どもの行き届かず、職員と子どもとの間に距離が生まれてしまうという問題がありました。

そこで、その距離を埋める為に子ども全員が1つの家族という考え方ではなく、1つの部屋を1つの家、家族とし、職員は調理担当をなくし各部屋に1人担当職員を配置、また事務所も週に1日は保母担当になる日を設け、全員が保母担当として子どもを見ることになりました。この取り組みで大きく変わったことは、各部屋に担当職員が配置され、その職員が部屋の子も達を責任を持って指導すること、部屋で一緒に生活するようになったこと、食事を各部屋ごとに作るようになったことです。この取り組みが始まった当初は職員から「自分の時間が減ってしまった」「夜眠れない」等の意見が上がりましたが、日にちを重ねていくにつれ、職員自身が子どもと一緒に生活する事に慣れ、子ども達が担当職員を手伝っている姿や、調理の仕方を教わっている姿をよく見かけるようになりました。そして大きく変わったことは職員と子ども達に会話が増え、笑い声がよく聞こえてくるようになったことです。職員からは「子ども達のことを今までよりも知る事が出来た」「子どもとの距離が近くなり、注意したことをよく聞いてくれるようになった」等の良い意見や、良くも悪くも部屋で日々様子を見るようになってからわかった発見があったようです。

職員全員が子ども達を本当の子どものように愛情を注ぎ、職員も子ども達と一緒に成長出来ることを期待しています。そして、家族と一緒に生活出来ない理由を抱え園に入園している子ども達には、園で過ごす時間を本当の家族と過ごす時間だと思ってもらえるように、子ども達にとっていつも居心地の良い場所であり続けたいと思います。